DONALD KEENE LONDON MASAAKI MIYAZAWA

2017|05|30-06|05

ドナルド・キーン・センター柏崎
二〇一八年度前期特別企画展

ドナルド・キーン、倫敦（ロンドン）に還（かえ）る。

第二章
『源氏物語』の芸術的な翻訳者、アーサー・ウエーリとの邂逅

4/1(日)—8/12(日)

企画展示

ウエーリの翻訳は英語芸術作品の傑作と高く評価され、『源氏物語』は世界の文学と認められました。キーン先生はその作品と出会い、ウエーリを師と仰いできました。そうした二人の出会いや別れ、語学の天才と謳われたウエーリの仕事や魅力などをみつめます。

宮澤正明写真展

キーン先生は、敬愛するアーサー・ウエーリの残像を探してロンドンのゴードン・スクエアやケンブリッジを訪ねました。その心の旅を写真で見つめます。

会場 ドナルド・キーン・センター柏崎 2階企画展示室

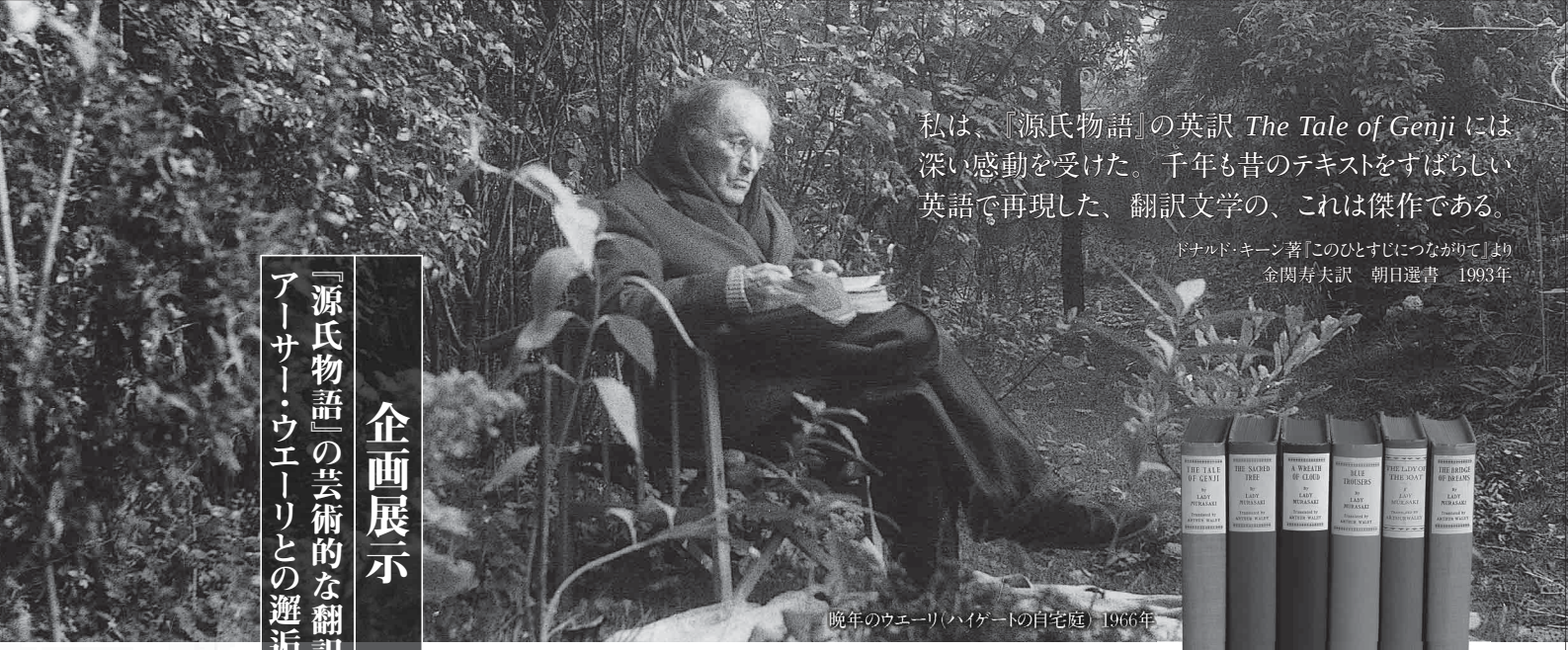
主催◎公益財団法人ブルボン吉田記念財団

後援◎新潟県、新潟県教育委員会、柏崎市、柏崎市教育委員会、東京都北区、東京都北区教育委員会、東京都北区立中央図書館、新潟日報社、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、柏崎日報社、柏新時報社、柏崎コミュニティ放送

協力◎ブルボン、弘知法印御伝記ロンドン公演実行委員会

ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

©MASAAKI MIYAZAWA



私は、『源氏物語』の英訳 *The Tale of Genji* には深い感動を受けた。千年も昔のテキストをすばらしい英語で再現した、翻訳文学の、これは傑作である。

ドナルド・キーン著『このひとすじにつながりて』より
金関寿夫訳　朝日選書　1993年

晩年のウエーリ（ハイゲートの自宅庭）1966年

企画展示

『源氏物語』の芸術的な翻訳者、アーサー・ウエーリとの邂逅

アーサー・ウエーリ英訳"THE TALE OF GENJI"
出版：Houghton Mifflin Company
1926年から1933年にかけて出版された
アーサー・ウエーリ英訳の『源氏物語』6巻本。

1940年、コロンビア大学の学生だったキーン先生は、タイムズ・スクエアの本屋で偶然に *The Tale of Genji* を手にします。「夢のように魅惑的で、どこか遠くの美しい世界を描き出していた」ウエーリ翻訳の『源氏物語』に心を奪われました。この出会いが、キーン先生の日本文学研究のきっかけとなったのです。第二次世界大戦が終わって、コロンビア大学大学院、ハーバード大学で日本文学研究を続けたキーン先生は、1948年にイギリスのケンブリッジ大学に移ります。ロンドンには、キーン先生を日本文学へと導いたウエーリがいました。企画展では、キーン先生とウエーリの出会いから別れまでの日々、語学の天才と謳われたウエーリの仕事、キーン先生が人生の師と仰ぎ、敬愛してやまないウエーリの魅力などを見つめます。

ニューヨーク・タイムズスクエア
（推定 1940 年代）

コロンビア大学入学の頃

憧れのアーサー・ウエーリとケンブリッジ大学で
1953 年頃

展示テーマ

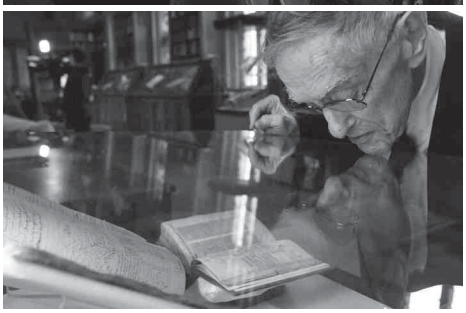
1　アーサー・ウエーリ訳 "THE TALE OF GENJI" との出会い

2　"THE TALE OF GENJI" 出版と反響

3　アーサー・ウエーリ『源氏物語』英訳への道のり

4　キーン先生の忘れえぬウエーリの記憶
初めて会った日／アイヌ叙事詩『クツネ・シルカ』の講義／
二人との別れ、菊池寛賞受賞

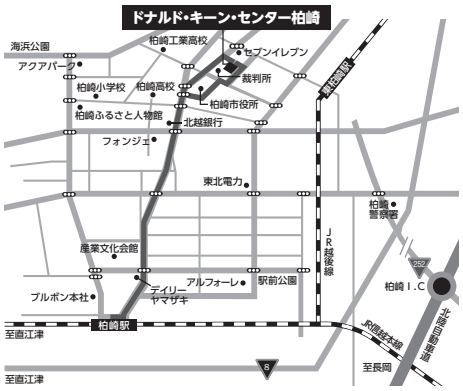
5　アーサー・ウエーリ、ハイゲートに死す　　発見された未発表原稿



宮澤正明写真展

アーサー・ウエーリの残像を探して

キーン先生は、ロンドンで古浄瑠璃『越後国柏崎 弘知法印御伝記』の里帰り公演を終えると、ウエーリが住んでいたゴードン・スクエアやケンブリッジを訪ねました。その心の旅を見つめた写真展です。



ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI
新潟県柏崎市諏訪町10-17　TEL 0257-28-5755
www.donaldkeenecenter.jp/

開館時間：10 時～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）
休 館 日 ：毎週月曜日・火曜日
12 月 26 日～ 3 月 31 日は冬季休館
入 館 料 ：大人500円・中高生200円・小学生100円
（入館料にて特別企画展を観覧できます。）